

### “ツール・ド・フランス さいたまクリテリウム”の開催、 1,000台超のシェアサイクル

# 「自転車のまち さいたま」を推進



さいたま市長  
**清水 勇人**

「自転車・バイク・自動車駐車場 パーキングプレス」誌 発行人  
**森井 博**

#### 【プロフィール】

清水 勇人(しみず はやと)

1962年3月25日生まれ。日本大学法学部政治経済学科卒業後、財団法人松下政経塾を経て、衆議院議員秘書、公設第一秘書を務める。2003年～2009年、埼玉県議会議員を務めた後、2009年5月さいたま市長に初当選。2013年2期目、2017年3期目と連続当選を果たし、現在に至る。野球、ソフトボール、サッカー、ボウリング、茶道、ウォーキング、ゴルフ、グラウンドゴルフ、ジョギング等、多彩な趣味を持つ

「自転車・バイク・自動車駐車場 パーキングプレス」誌 発行人

本稿ではこれまで、政令指定都市、主要地方都市の自転車を軸にしたまちづくりをたびたびテーマにしてきたが、取り組みの多様さでは、この自治体がトップクラスではないだろうか。独自の自転車施策、大規模なシェアサイクル実証実験の展開、さらには世界最高峰の自転車レースの名を冠した「ツール・ド・フランス さいたまクリテリウム」が開催されている、さいたま市である。

自転車によるまちづくりの成功を左右する重要なファクターのひとつは、その自治体の首長がいかにかリーダーシップを発揮して、関係部署を巻き込んでいけるかだと思う。その点、さいたま市の清水勇人市長のリーダーシップ、行動力は特筆に値する。何しろ自らフランスに乗り込み、日本はもちろん、アジア初となる「ツール・ド・フランス」の名を冠した自転車レースの開催にこぎつけたのだ。さいたま市の自転車施策に対する本気度を示すトピックであり、今日の同市の自転車施策成功の大きな原動力になった。

多忙な市長から頂戴した対談時間は約30分。短い時間ではあったが、自転車によるまちづくりに対する熱い思いを聴くことができ、濃密な時間となった。  
(対談収録：2019年8月23日)

## 市民の自転車保有率83.5% だからこそ徹底した 自転車施策が必要だった

**森井** まずはさいたま市の特徴的な自転車施策の取り組み「さいたまはーと」について教えてください。

**清水** 承知しました。では、本題の前に施策の背景から説明させていただきます。さいたま市は地形がほぼ平らなため、多くの市民の皆さんが自転車を通勤通学や買い物等に利用されています。自転車保有率は83.5%で、政令指定都市の中でナンバーワンの数値なのです。

**森井** なるほど。JRや東武鉄道など公

共交通機関も充実しているのでパーク&ライドが浸透しているのでしょうか。

**清水** ただ、その一方で自転車関連の事故も多く、すべての交通事故のなかで35.7%と非常に高い割合を占めています。さらに駅や商業施設の周辺の放置自転車の問題もあります。アンケートを行うと、市内の自転車利用者のマナーに対して不満を感じているというご意見が75%を超える状況でした。こういった課題を解決しながら、安心・安全、快適に自転車を活用していただく、楽しんでいただくことが必要ということから「さいたまはーと」の立案に至りました。

**森井** 具体的にはどんな内容でしょうか。

**清水** 「たのしむ」「まもる」「はしる」と「めぐる」、以上の4つを柱に据えて計31の方策を推進しています。まず「たのしむ」は、自転車を使って余暇を充実してもらうための取組等を展開しておりまして、心も体もリフレッシュして、「健幸」な生活を送ってもらいたい、との思いを込めています。

**森井** 自転車で「健幸」というのは良いキャッチフレーズですね。

**清水** ありがとうございます。この計画を作る時に開いたタウンミーティングで、ある中学生が言っていたんですが、かつてはルール遵守、交通安全関連のことばかり言われて、彼はそういう視点でしか自転車を捉えていなかったそうなんです。しかし、タウンミーティング前に家族でサイクリングに行ったら『自転車ってこんなに楽しいのかと初めて知りました』と話してくれました。そういった楽しさを皆さんに味わっていただきたいですね。

## 子育て世代を対象に 電動アシスト自転車を貸し出し ルール・マナーを啓蒙

**森井** 「まもる」はいかがでしょうか。

**清水** 自転車利用のルール・マナーの

意識向上のための取り組みです。自転車利用者だけでなく、自動車ドライバーや歩行者も含めた総合的な視点で、交通安全教育の推進や交通事故対策の強化を行っています。それと子育て世代向けに3人乗り電動アシスト自転車をレンタルする「子育てパパママ自転車アシストプロジェクト」も特徴的です。

**森井** 電動アシスト自転車のレンタルがルール・マナーの意識向上につながるかと？

**清水** はい。子育て世代のパパママに3人乗り電動アシスト自転車を貸し出す代わりに、自転車利用模範推進員になっていただくのです。交通ルールをしっかりと理解していただき、それを周囲に伝える役割を担っていただくプロジェクトです。

**森井** ただ貸すだけでなく啓蒙役を担ってもらうのはユニークですし、さいたま市さんとユーザー、お互いがWinWinで合理的ですね。

**清水** また、さいたま市では早い時期から自転車の安全な乗り方を身につけてもらうために、市立小学校の小学4年生を対象に安全講習を行い、子ども自転車運転免許を交付する取り組みも行っています。

**森井** 交付してもらうために、子ども達にはどんな講習を受けるのですか。

**清水** DVD、テキスト等による学習、筆記試験、自転車を使用する実技試験等になります。試験後、合格した児童に「子ども自転車運転免許証」を市教委と警察署名で交付しています。また、昨年度からは中・高等学校生自転車運転免許制度の実施も始めました。講習等を受講して基本的な交通ルールを体得してもらい、交通安全に対する意識を高めて将来的な交通事故防止を目的にしたものです。

**森井** 対談冒頭で自転車関連事故の多さが問題とおっしゃっていましたが、子どもの頃から安全に対する高い意識を持ち続けられれば、事故の発生件数はき



「たのしむ」とも連動するのですが、公共施設、飲食店、自転車店、コンビニなどに自転車ラックや自転車工具、空気入れの無料貸し出しを行う「さいクルステーション」をつくりました。現在、店舗等15ヵ所、公共施設2ヵ所があります。

**森井** 特にロードバイクなどは故障したりする場合も多いので、そうしたサポート施設が充実しているのは心強いですね。

**清水** ありがとうございます。

### 機能やサイズが多様化する自転車を快適に駐輪できる環境を整備

**森井** 4番目の柱「とめる」について教えてください。

**清水** 駅前などの放置自転車を解消するために、駐輪の需要に応じた駐輪場の適正配置や、放置自転車解消のための取り組みです。さいたま市は市営・公営駐輪場が65施設(そのうち市営27施設)、民間駐輪場が338施設あり、収容台数ベースでは市・公営4割：民間6割となっており、行政と民間が協働で駐輪需要を満たしている状況です。民間のノウハ

ウを取り入れることが指定管理者制度のメリットですから、指定管理者と協力して駐輪場がより安心・安全・便利な施設になるよう取り組み、地域にとって必要とされる施設にしていきたいものです。今後も指定管理者の皆さんと協力しながら、そういったことにも取り組んでいきたいと考えています。

**森井** 需要に応じた収容台数の確保もさることながら、機能やサイズが多様化している自転車を駐輪する環境の整備にも注力されているとお聞きました。

**清水** はい。近年増えているチャイルドシートが前後に付いている自転車、ロードバイク、高齢者の方がよく乗られている3輪の自転車なども快適に停められるスペースの確保にも取り組んでいます。なおかつ、単に自転車を置くだけでなく、情報発信、防災などの付加価値を備え、空間を効率的に使う視点もより重要になると思っています。

**森井** ドイツのミュンスターという駅の広場の地下に素晴らしい駐輪場がありましてね。地下2層のうち1層は大きなサイズの自転車や、カーゴバイクなど特殊な自転車を停めるスペースに充てているのです。日本でも最近「思いや

と減少することでしょう。続いて「はしる」について教えていただけますか。

**清水** 「はしる」は自転車で移動することが快適だと実感していただくことを目指し、走行環境整備や移動快適性の向上により、さらなる自転車利用者の拡大に向けた取り組みです。

**森井** 自転車レーン整備等も進めているらっしゃるのですか？

**清水** はい。令和4年度までに約200kmの自転車レーン整備を進めています。平成30年度末時点では約93kmの整備が完了しました。また、これは



①②2018年11月に実施された「ツール・ド・フランス さいたまクリテリウム」の様子 ③2019年のコース全体図(予定)。1周約3.5km。クリテリウムレース(海外招聘選手、国内選手によるレース)、タイムトライアルレース、スプリントレースなどが行われ、当日さいたま市は自転車一色になる

りスペース」などの別枠に特殊な自転車を停めてもらう駐輪場が増えています。さいたま市さんの取り組みが良い先例になるといいですね。

**清水** そうなるよう、取り組みを進めて参ります。

**森井** 駐輪環境にも深く関係してきますが、昨年6月に閣議決定した自転車活用推進計画については、どのような認識や期待感をお持ちですか。

**清水** 今後ますます自転車の活用を積極的に進めていく時代になると思っています。その中で私達もさいたまは一との取り組みだけでなく、より多角的な事業を展開して「自転車のまち・さいたま」を大いにPRしていきたいと考えています。また、来年度はさいたまは一との中間年度に当たりますので、来年度中の改定に向けて準備を進めているところです。

## さいたまスーパーアリーナ屋内と800mの直線コースで白熱するクリテリウム

**森井** 続いて「ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」についてお聞きします。その年の7月の「ツール・ド・フランス」で活躍した世界のトップ選手を同年の秋にさいたま市で見られるという稀有な体験ができるイベントの意義は非常に大きいですね。開催に至った経緯を教えてください。

**清水** 2011年10月に、地域のスポーツ振興と推進、スポーツ観光市場の創出等を目的に、さいたま観光国際協会内にさいたまスポーツコミッションを設立したことがきっかけです。もともとさいたま市はスポーツが非常に盛んな地域。浦和レッズと大宮アルディージャ、Jリーグのクラブが2つあり、スポーツ少年団の団員数は全国トップクラスです。そうした環境をさらに推進していこうと考えていました。政令指定都市ではさい

たま市だけなのですが、スポーツをまわりに活かしていく視点の計画を立て、それを推進していくエンジンの役割として、さいたまスポーツコミッションをつくったのです。

**森井** 埼玉スタジアム2002、さいたまスーパーアリーナと、スポーツを行う場所も全国トップクラスの充実度ですよね。FIFAワールドカップをはじめ、国際的なスポーツ大会も多く開催されています。

**清水** ありがとうございます。コミッション設立の翌年には、自転車やマラソンなど屋外で開催するエコロジカルスポーツを誘致していこうということになりました。多方面にアンテナを張っていたところ、ツール・ド・フランスが大会創設100年を記念してアジアでの開催を検討しているという情報をキャッチしました。そこでフランスに向かい、主催団体のアモリ・スポル・オルガニザシオン(A.S.O.)と交渉し、大会開催に成功したのです。

**森井** 今年で7回目とうかがっています。大きな経済効果をもたらしているのではないのでしょうか。

**清水** おかげ様で国内における経済波及効果は、2018年に約30億4,700万円、新聞・テレビなどでの露出を広告価値に換算した値は、約12億6,800万円でした。さいたまクリテリウムは約190の国と地域に配信され、さいたま市内の映像を世界中の方にご覧いただいていることになります。

**森井** コースの設定がさいたまスーパーアリーナの中を通るとするのは画期的だと思います。

**清水** 今年は10月27日の日曜日、さいたま新都心駅周辺で開催されます。2016年以来3年ぶりに、さいたまスーパーアリーナ内部を通るコースになりました。屋内を通るコースは世界的にも珍しく、また、フィニッシュラインまでの最後の直線は800mに及びます。



**森井** ゴール直前のスプリントはさぞかし白熱することでしょう。楽しみです。

**清水** 約10万人の方が観戦に訪れるのですが、近年は穴場の観戦スポットを見つけたり、待っている間に同日開催される「さいたまるしえ in さいたまクリテリウム」で買われたワインなどを楽しむなど、思い思いの観戦スタイルができ上がってきたと感じています。将来的には、ここで観戦した日本のお子さんの中から、ツール・ド・フランスに出場し、さいたまクリテリウムに凱旋する選手が出てくる、というのが私たちの夢です。

**森井** 日本人では新城幸也選手や別府史之選手らが出場を果たしていますが、私も、将来彼らに続く人材が育つことを願っています。

**清水** ありがとうございます。今年か



2018年11月にOpen Street株式会社と基本協定を締結してシェアサイクルの実証実験を開始。期間は2021年3月末までを予定。さいたま市がポートを設置するための公共用地の提供を行う

ら大会の主催が、昨年、一般社団法人になったさいたまスポーツコミッションになったことで、民間の柔軟な発想や豊富な経験を取り入れた新たな事業展開を行うことにより、大会価値のさらなる向上が図れると考えています。さいたまクリテリウムのブランド力が一層高まり、大会をさいたま市内で継続開催していくことで、さいたま市のブランド力も高まっていくものと期待しています。

## ポート258カ所、1,000台超のシェアサイクルから得るビッグデータを利活用

**森井** 現在、社会実験として展開されているシェアサイクルについてお聞かせください。

**清水** はい。昨年11月から民間のシェアサイクル事業者と連携し、新たな都市の交通システムとしてのシェアサイクルの普及に向けて実施することの有効性や課題を検証するためにスタートしています。現在はポート258カ所(そのうち公共35カ所)、自転車台数1,013台で展開しています。

**森井** 稼働自転車数が1,000台超とい

うのは全国トップクラスです。課題を挙げるとすると、どんな項目になりますか。

**清水** 利用の傾向を調べてみると、主要駅から1~3km圏内での利用頻度が高いことが分かりました。やはり朝・夕の利用が比較的多く、通勤・通学利用が想定されること等を踏まえ、ポートの適正配置に向けた検討や課題の洗い出しが必要だと考えています。

**森井** 具体的にはどのような内容になりそうでしょうか。

**清水** まずは既存ポートの配置と集客施設、人口分布等を確認して、次の設置候補の場所を抽出することが挙げられます。また、どうしても発生してしまうポート間での利用率のばらつきに関する要因分析や利用向上策、利便性を上げるためのプランも検討しなければなりません。

**森井** 他の公共交通機関との連携についてはいかがですか。

**清水** バス等の公共交通とどうつなげていくかも重要だと思っています。バス停、あるいは鉄道駅周辺にサイクルポートが設置できるかも含めていろいろ検討していく必要があります。バスの場合、多少時刻表の時刻と前後して到着する

ケースがあるので、それをどうシェアサイクルとつなぐか。リアルタイムにバスの運行状況がどうなっているかの情報も併せて考える必要があります。その意味では、いずれMaaSの導入も検討する時期が来るかもしれません。

**森井** そうですね。他の政令指定都市では、北九州市、福岡市などが既にMaaSの推進に取り組んでいます。

**清水** ラストワンマイルに位置づけられるシェアサイクルとバス、鉄道等がスムーズにつながることで、自転車のまち・さいたまはさらに進化できると思います。また、1,000台超の台数と、昨年11月の実証実験開始から今年7月までの間に、利用回数が約3倍に伸びたことで蓄積されているビッグデータの活用も検討していきます。

**森井** どのような内容を検討されるつもりですか。

**清水** 買物・イベント関連の情報提供による利用や周遊促進策、合わせて道路交通・交通事故の情報提供による安全性向上策等を検討したいと考えています。さいたま市の自転車施策をより充実させてくれる、良いヒントが得られるのではないかと期待しています。



①②さいたま市内を通る荒川サイクリングロードにおいて1km毎の路面表示を17カ所、案内看板16カ所を設置(平成29年度) ③自転車に乗る人が気軽に立ち寄り、休憩できる施設「さいクルステーション」。自転車ラックや自転車工具、空気入れの無料貸し出しも

## ハード・ソフトの両面から サイクルツーリズムを活性化

**森井** では最後にさいたま市が進めている、サイクルツーリズムの取り組みについて教えてください。

**清水** さいたま市には、荒川沿いに荒川サイクリングロードがあり、関東地方在住のサイクリストを中心によく利用されています。そのため、先程申し上げましたが、市内のサイクリングロード周辺にサイクリストの休憩施設として、民間施設のコンビニや飲食店などと連携した「さいクルステーション」の認定・設置を進めています。また、今年度から国土交通省関東地方整備局が主体となって「RiverCycRing Project」という企画が立ち上がっています。荒川などの河川を軸に、自転車を使った観光まちづくりに生かせる取り組みの検討等、サイクルツーリズムの推進に向けた取り組みです。さいたま市もこのプロジェクトに参加しており、地域資源のPRやブランディング化を強めていきたいと考えています。



さいたまクリテリウム・オフィシャルポロシャツの鮮やかな黄色が印象的だった清水市長。自転車、スポーツ等を通じたまちづくりの他、「子どもが輝く絆で結ばれたまち」もテーマに掲げている

**森井** 荒川のサイクリングロードは、趣味でロードバイクに乗っている私の娘も頻繁に通っているようです。非常に良いコースだと話していました。

**清水** ありがとうございます。荒川のサイクリングロードには、都内からもかなり多くのサイクリストの皆さんに来ていただいて、土日を中心に賑わっています。そこからどうやってさいたま市内の観光資源につなげるか、どのように快適な休

憩をしていただくか等、ハード・ソフトの両面から、サイクルツーリズムをもっと盛んにしていきたいと考えています。

**森井** 分かりました。今後のさいたまさんの取り組みに期待しています。本日は短い時間ながら、ツール・ド・フランス、さいたまクリテリウムやさいたまはーと、サイクルツーリズムなど、多くの話題についてお話しください、勉強になりました。誠にありがとうございました。 PP

### 【パーキングプレス 発行人】森井 博のプロフィール

- 一般社団法人 日本パーキングビジネス協会 理事長
- 一般社団法人 自転車駐車場工業会 会長
- 一般社団法人 日本シェアサイクル協会 専務理事
- 東京京橋八重洲ライオンズクラブ 会員
- 六本木男声合唱団 団員
- サイカパーキング(株)、日本駐車場救急サービス(株)、モーリスコーポレーション(株) 夫々会長

**【略歴】** 1938年(昭和13年)宮崎県延岡市生れ81歳。  
1957年(昭和32年)石川県立金沢泉丘高校卒  
1961年(昭和36年)東京商船大学(現東京海洋大学)卒  
1961~1979年 石川島播磨重工業(現: IHI)  
1979~1991年 東芝  
1991年~ 現職

**【趣味】** 現在: ゴルフ・車・自転車・歌・仕事  
過去: 水泳・野球・陸上競技・テニス

**【遍歴】** ゴルフ: 毎週1回ホームコースでラウンド、週1~2回練習場通い。  
車: 毎日通勤で運転。中古車3台を大切に乗り廻す。  
自転車: 数台保有するも年齢を考え余り乗らない。  
歌: 六本木男声合唱団で毎週1回練習に励む。  
仕事: 健康のため平日は毎日9:00~17:00出勤。  
水泳: 小学校に入る前から泳ぎは得意。  
野球: 中学生までは本気でプロになるつもりであった。  
陸上競技: 高校時代 短距離、やり投げ、インターハイ2回出場。  
テニス: 元テニス選手のコーチでかなりの腕前(?)になるも、45歳時アキレス腱断裂で断念。

## 過去の対談ゲストの方は、WEBでご紹介しています

パーキングプレス 対談 で検索

または <http://www.parkingpress.jp/taidan/> にアクセス

対談記事のバックナンバーもご覧いただけます。

